

# 漁海況月報

平成28年3月22日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

## 1 海況予測

### (1) 現況

3月17日の人工衛星画像によると、黒潮は潮岬で接岸したあと東進し、八丈島の北を通ったあと、房総半島沖を東に流れています。

### (2) 予想

前崎沖から渥美外海沖にかけて、弱く暖水が流入しています。潮岬以西で大きな蛇行は見られず、現在の流況が継続すると推測されます。

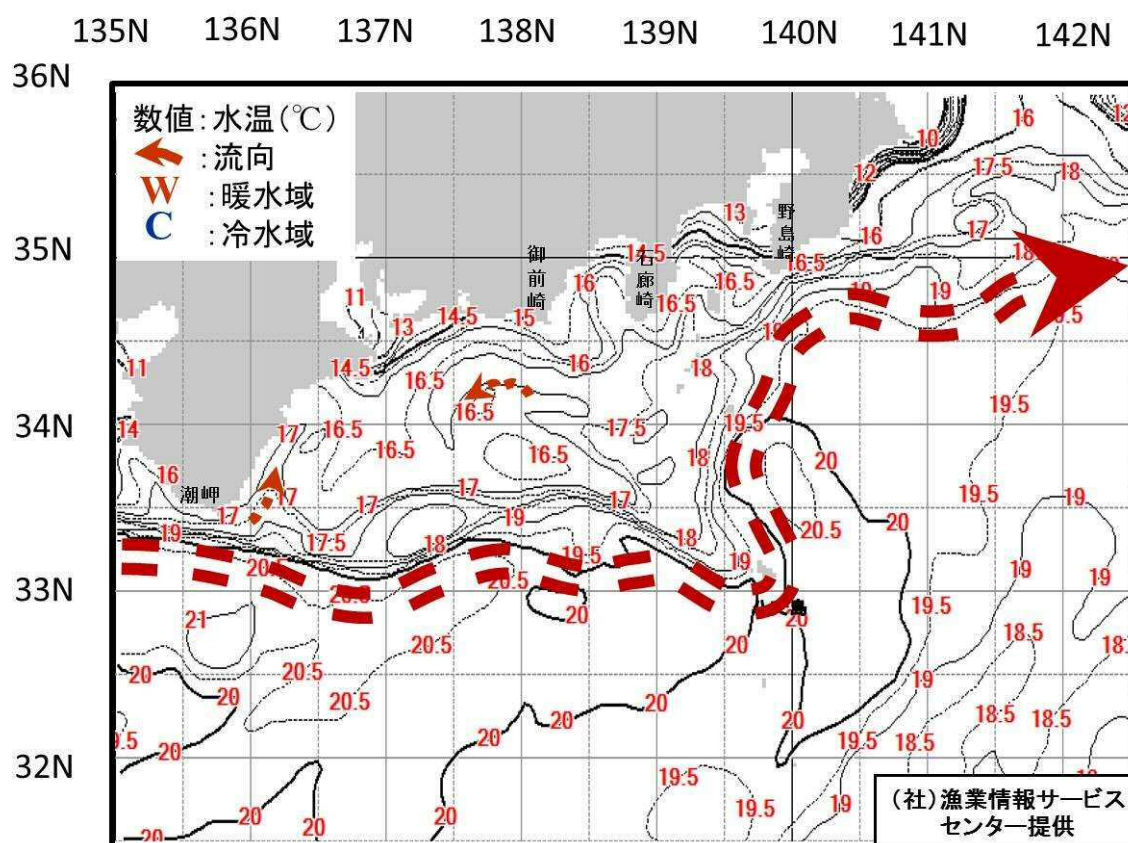


図1 海況の現況[2016年3月17日]

## 2 イワシ類

### (1) シラス

2016年1月は11トンの漁獲がありました。漁場は外海でした。聞取りによれば、マシラス混じりであったことから、内湾の魚群ではなく外海からの来遊があったものと考えられます。

水産試験場が行うボンゴネット調査では、内湾でもマシラスが採集される地点があり、春シラスには昨年同様、ある程度マシラスが混獲されるものと考えられます。

表1 愛知県シラス漁獲量 (トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	1	0	0	169	583	1,168	1,219	517	677	547	478	279	5,637
2012	9	0	0	110	444	832	1,383	1,167	679	1,142	496	181	6,443
2013	4	0	0	723	1,667	374	250	295	1,248	322	353	127	5,363
2014	0	0	0	594	2,828	527	18	891	672	1,400	592	236	7,758
2015	0	0	6	980	3,255	1,466	40	166	164	1,002	1,876	781	9,736
2016	11	0											11
10年平均	2	0	7	419	1,585	1,061	610	562	542	737	555	223	6,305

### (2) カタクチイワシ

2016年1月は85トンの漁獲がありました。主な漁場は伊勢湾でした。

魚体サイズは、平均体長で約85mmとなっており、明け1歳（前年生まれの群を1月1日に加齢して計算した年齢）でした。今年は沖合回遊群の来遊は今のところありません。

表2 愛知県カタクチイワシ漁獲量 (トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	37	92	116	561	768	1,945	3,610	4,935	572	159	294	401	13,491
2012	46	0	0	260	1,471	1,792	1,824	3,704	2,197	483	851	354	12,983
2013	0	0	0	0	803	2,680	4,794	5,382	2,382	1,082	2,811	1,768	21,702
2014	446	0	0	655	269	2,864	5,389	3,742	3,009	2,609	1,971	703	21,657
2015	231	226	0	131	0	286	4,707	2,888	2,900	665	1,223	361	13,617
2016	85	0											85
10年平均	84	48	12	226	736	1,826	4,107	4,147	2,596	1,505	1,330	739	17,357

### (3) マイワシ

2016年1月は74トンの漁獲がありました。主な漁場は伊勢湾でした。

魚体サイズは、平均体長で約140mmでした。この群は、成熟も進んでおり、明け1歳の沖合回遊群と考えられます。

表3 愛知県マイワシ漁獲量 (トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2011	0	0	1	0	2	29	361	1,223	1,091	264	68	4	3,044
2012	0	0	0	0	0	72	49	499	214	52	0	0	886
2013	0	0	0	0	1	8	107	577	295	3	0	0	992
2014	0	0	0	<1	0	104	269	1,547	1,334	617	422	180	4,474
2015	76	78	0	0	0	4	1,010	2,100	3,184	2,684	1,413	574	11,123
2016	74	0											74
10年平均	8	9	0	0	1	29	255	757	736	432	212	81	2,519

### 3 イカナゴ

愛知県と三重県の漁業者団体は、3月10日に協議を行い、資源量が極端に少ないことから、資源の回復のためには来年の親として十分な尾数を残す必要があるとして、今期の伊勢・三河湾のイカナゴ漁を禁漁とすることを決定しました。これまで、資源量が少なく、数日で終漁となった年がありましたが、全面禁漁となったのは、1990年代に解禁日及び禁漁日を設定するようになって以降、初めてのことです。

表4 愛知県のイカナゴ漁獲量と解禁日、終漁日

年	加入資源 億尾※	漁獲尾数 億尾	残存資源 億尾	漁獲量(トン)	解禁日	終漁日
1992	1,028	670	358	11,300	2/28	6/23
1993	355	283	72	7,600	2/21	4/28
1994	397	301	96	3,000	3/14	4/10
1995	98	89	9	1,900	3/29	5/7
1996	336	320	16	5,800	3/3	5/3
1997	152	133	19	4,100	3/6	4/20
1998	51	46	5	800	2/22	3/26
1999	141	136	5	4,500	3/7	4/30
2000	34	30	4	600	3/6	3/31
2001	238	184	54	5,700	3/4	5/20
2002	434	299	135	7,100	2/24	5/30
2003	195	184	11	3,100	2/21	4/7
2004	361	285	77	10,700	3/4	5/26
2005	163	135	28	4,000	3/8	4/24
2006	651	450	201	9,300	3/9	5/31
2007	182	155	27	4,500	2/27	4/30
2008	180	137	44	3,600	3/2	4/30
2009	44	23	20	1,000	3/8	3/25
2010	504	359	145	10,400	3/3	6/9
2011	283	247	36	6,200	3/11	5/25
2012	321	268	53	7,700	3/8	5/27
2013	302	216	87	4,100	2/28	3/31
2014	292	244	48	5,500	3/2	5/14
2015	89	56	33	2,000	3/6	3/31
平均	285	219	66	5,188	—	—

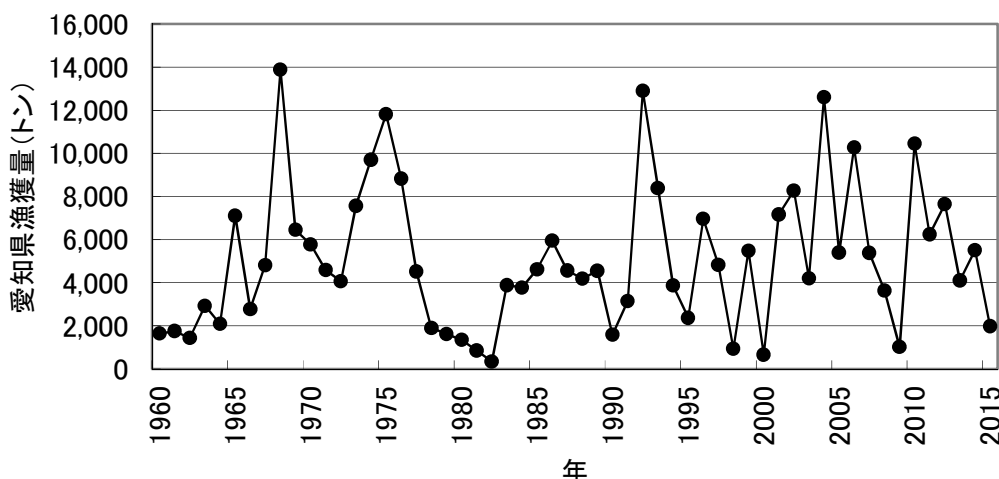


図2 愛知県のイカナゴ漁獲量の推移

○今期のイカナゴ資源が少ない原因

(1) 夏眠魚の減少

今年の空釣り調査で得られた夏眠魚の肥満度は、8月を境に急激に低下していました(図3)。これは、黒潮から分かれた流れが夏眠場所付近に達し、25℃以上の高水温が約1ヵ月程度継続(図4)したことにより、北方系の魚種であるイカナゴの親魚が衰弱したことが原因と考えられます。

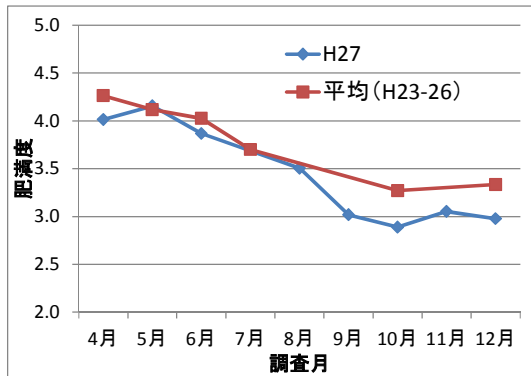


図3 夏眠魚の肥満度の変化

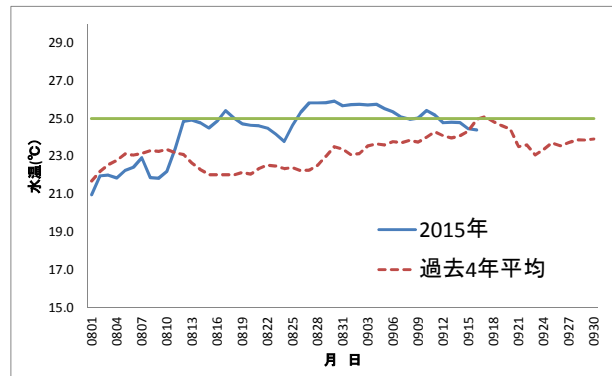


図4 夏季の湾口部底層水温の推移

(2) 産卵期の乱れ

夏眠場所付近の水温は例年12月下旬にはイカナゴが夏眠から覚める14℃付近まで低下しますが、2015年は、黒潮から分かれた流れが継続して夏眠場所付近に達し、例年より2℃ほど高く、水温の低下は1ヵ月程度遅くなっていました。このため、産卵時期は大きく遅れたと考えられます。

(3) 仔魚の内湾への輸送の失敗

平成28年1月18日の黒潮の流路をみると、渥美外海は熊野灘方面からの暖水波及により東向きの流れとなっていました(図5)。このため、ふ化仔魚はこの東向きの流れに乗って流され、内湾への輸送が上手くいかなかったものと考えられます(図6)。

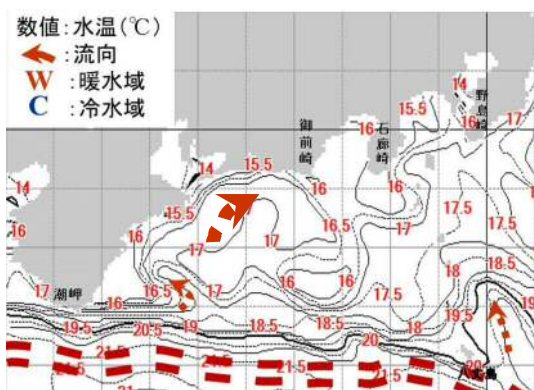


図5 平成28年1月18日の黒潮の流路

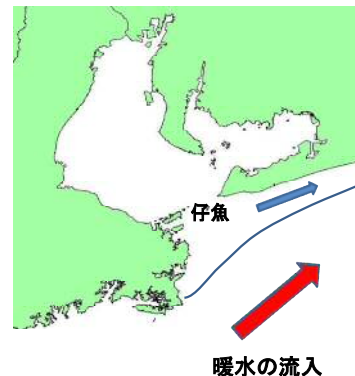


図6 渥美外海の流れと稚魚の輸送

○今後の対策

水産試験場では、低水温を好むイカナゴに対して、高水温や黒潮分岐流の接近が親魚や産卵及び仔魚の生き残りに与える影響を調査し、関係漁業団体と協議しながら、適切な管理方策について提案を行っていきたいと考えています。